

会員の広場



エネルギーとバイオのメッカ福島に

内田 宏之（東京）

後手に回った原発事故での対応によって、かえって思い切った復興が可能なかもしれない。以下のプラン＋同時進行型研究組織の組み合わせで解決できそうな気がしてならない。ここは明るく心を放って、沢庵の教えに従い「夢」を見ることにしたい。

◆プランその① 土地の「地」だけ利用

原発周辺は半減期の長い放射能が蓄積することを考えれば、植林をしたところで一帯の放射線量が下がる

わけでもなく、木材としての利用も放射能の拡散を考えると難しい。土地の「地」は利用するが、「土」は利用しない仕組みにする。

放射能を蓄積した土の上を水槽や池で埋め尽くし、水槽や池が遮蔽材となれば、一帯の放射線量は下がり人の立ち入りが可能となる。水槽や池はクロレラや緑虫などの培養に利用し、それをバイオ燃料にすれば放射能の拡散の心配はない。このプランには、飯館村などでの放射能汚染した土をかき集めて土手を築き、ゴムシートを敷いて池を作ることも含まれる。

◆プランその② 平成の農地解放

世界の命題は唯金主義と唯自然主義の対立にあるが、唯金主義が勝ちすぎているのが気になる。そこで、唯金主義の産物である全国の耕作放棄地に宅地並み課税等をかけて、唯金主義者たちに肩すかしをくらわせ農地を放棄させる。これを国が召し上げて被災地の方々に配分すれば、プラン①で農地を失った方々や塩害で

耕作できなくなった方々の一助となるだろう。

◆プランその③ 原発の再生と蓄エネ

原発の欠点のひとつはあふれるエネルギーを夜間においても垂れ流さざるをえないことだ。揚水式ダムで夜間に水を上げて蓄エネするにしても限りがある。原発の夜間電力を使ってプラン①の水槽や池で緑虫などの形で電気以外のエネルギーに変換して蓄えておけば、バイオ燃料として利用できる。副次的に揚水式ダム建設による自然破壊を抑えることもできる。

◆現状の打開策 同時進行型研究組織

地震、津波を除く原発防災対策で現状の弱点は4つある。第1は非常時の冷却水対策で、プランその①の水槽や池の群のうち原発周辺の一帯は非常時の水の供給源、放射能汚染水の受け入れ先となる。あらかじめシステムとして研究しておくことだ。

第2はやむをえず空气中に放出した放射能の拡散防止対策で、放射線による環境破壊に耐えられる膜や繊

維素材、飛散防止用の膜体および防風ネット、布製型枠にコンクリートや水ガラスなどを圧入し短時間でしやへい壁を構築する技術、そしてシャワーや霧を用いた放射能の吸着技術などの研究だ。

第3は放射能汚染水の濃縮対策で、バイオやケミカル技術などによる濃縮技術を用いる。プランその①の水槽や池を利用して実証実験し研究を重ねることは、ニッポンの原発の安全保障ともなる。第4はロボットを用いた高濃度放射能下での作業対策で、ロボット大目と自認するに恥じない研究が必要だ。

要は研究組織の拠点を福島に設け、研究成果を直ちに原発に反映できるようにする。三つのプラン＋同時進行型研究組織に肉付けすることでバイオコンビナートも可能になり、水産業や畜産業を育成し、唯金主義に偏った原子力を解き放ち、唯自然主義と調和させて被災地の方々に仕事を作り出し、「禍転じて世界の福島となす」ことである。

経済倶楽部便り

丸雅男・S M B Cコンサルティング執行役員法人サー
ビス開発部長。
(塚田 紀史)

◆東京◆ 大震災、原発事故、余震と、心が晴れない日々が続きます。心機一転と思ひ、このところの休みは家庭菜園に精を出しています。朝6時前には8坪ほどの畑に出て、土づくりから始めました。これが結構汗を流す作業に。昨年同様にトマト、きゅうり、なすなどの苗が整然と並びました。実は福島に親戚があり、出荷停止のレタスやかぶを4月初めにかけて送ってもらい、堪能した日々のがあとでしたが……。

5月の講演会は、講師に中林美恵子氏(衆議院議員、民主党、猪口孝氏(新潟県立大学学長兼理事長、歳川隆雄氏(インサイドライン)編集長)をお招きします。新会員を紹介します。太田康広・S M B Cコンサルティンク専務、小橋新一郎・ソニーライフ・エイゴ生命保険監査役、徳田俊一・三菱製紙常勤顧問、寅

◆中部◆ この4月に専務理事が日暮良一に交代しました。中部経済倶楽部は1938(昭和13)年に石橋湛山によって設立されて以来、今年で73周年になる伝統ある倶楽部です。これまでどおり活力のある倶楽部として維持できるか不安もありますが、持てる力を発揮できればと思います。着任を前にした3月11日に東日本大震災が発生しました。影響は東北地方にとどまらず、中部圏にもその余波が来ています。そこで当面大震災による影響について、いろいろな角度から検証する講演会を行いたいと思います。その後は中部圏の活性化につながるテーマを選びすぐていきたいと考えています。どうかよろしく願います。5月の講演会は歳川隆雄氏(インサイドライン)編集長、武者陵司氏(武者リサーチ代表)です。(日暮良一)

社団法人経済倶楽部(東京)ご紹介

Q 東京の経済倶楽部の主な事業は何ですか。

A 毎週金曜日の12時40分から2時近くまで開かれる定例講演会がいちばんの事業で、東洋経済ビル9階のホールが会場です。年に約45回、毎週末に日本橋へ出かけるのを楽しみにしている会員が多数おられます。

講演はいずれも一流講師による充実したもので、経済、経営、政治、国際を中心に、時折、健康、教養のテーマまで幅広いものとなっています。講演を読みやすく編集した『経済倶楽部講演録』が毎月、届けられますので、欠席の場合はもちろん、出席した場合でも読み直してください。会員がたくさんおられます。

さらに毎月の経済金融懇話会、物申す会(いずれも無料)のほか、有料で株式研究会(毎月)、事業所見学会(年2回)、ミニ見学会(随時)、銷夏・忘年のパー

ティ、ゴルフ親睦会などがあります。毎週、講演会のあと映画鑑賞会があり内外の名画が上映されます。

Q 会員制度はどのような仕組みですか。

A 会員は約660人で、法人会員(3名連記)と個人会員からなっています。個人は1親等に限り名義書換が無料で、半年会費が4万2000円です。入会は会員の紹介が基本ですが、紹介のない場合でも入会可能です。会員は講演会の聴講、『経済倶楽部講演録』の送付、各種企画への参加、ホールや会議室利用・食事・書籍雑誌購入などで割引の特典があります。

Q 会員の親睦はどうでしょうか。

A 講演会の前の昼食はご希望の会員だけお取りいただいています。同じテーブルの会員同士の会話があり、講演後の喫茶、囲碁などを楽しみにしておられる方もおられます。貸し切りバスでの事業所見学会や銷夏・忘年パーティでは名札着用です。最近では会員がご友人に入会を誘われるケースも多くなってきました。